

2005 年 第 9 回日本代替・相補・伝統医療連合会議 (JACT)

口腔乾燥症 (ドライマウス) へのバイオフィーマンティクス® の応用

○小野田繁、新良一 a、三浦竜介 b；小野田歯科医院、a エイ・エル・エイ、b ディー・シー・エス

我が国で 40～50 万人が存在すると言われているシェーグレン症候群では、ドライアイやドライマウスを主症状としている。しかし実際に歯科医を訪れる口腔乾燥を主訴とする患者、及び本人の自覚は無いが口腔乾燥症を疑う患者は、シェーグレン症候群の患者数をはるかに上回る。シェーグレン症候群と診断されなかった患者 10 名に対し、バイオフィーマンティクス (BF) の効果を判定した。

【方法】

1993 年シェーグレン症候群ヨーロッパ診断基準から外れる、口腔乾燥を主訴とした 6 例並びに唾液分泌が減少していると思われる患者 4 例に対し、事前に口腔内症状のアンケートを実施し並びに口腔水分計 (モイスチャーチェッカー・ムーカス) を用いて口腔内水分量の計測を行った。次に BF を配合するサプリメントである「生源ゴールド」(株エイ・エル・エイ) を 1 日 3 本 (4.5 g) 飲用させ、また BF 配合の歯磨剤である「BF デンタルジェル」(株ディー・シー・エス) を使用して 1 日 3 回歯磨きをしてもらい、4 週間後の効果のそれぞれの判定を行った。BF は複数種の乳酸桿菌、乳酸球菌および酵母を大豆抽出液中で混合培養して得られる機能性発酵生産物である。

【結果と考察】

全 10 症例の内訳は男性 3 例、女性 7 例であり口腔乾燥の患者は女性に多く見られた。また年齢は 35 歳～87 歳と年齢分布は広い範囲に渡ったが、殆ど中高年に多くみられた。4 週間後のアンケートでは口腔乾燥を主訴とした 6 例中 5 例が症状の改善が見られたと答え、同時に口腔内水分計測においても 6 例中 5 例が乾燥判定から境界値を超え正常値に近づいた。また口腔乾燥を主訴としない 4 例についても、視診で明らかな唾液による湿潤を認め、口腔内水分計測においても症状の改善が見られた。歯磨剤である BF デンタルジェルの配合主成分は BF だけではなく、ギリシャのヒオス島に自生する灌木の樹液で古代より口腔環境改善に応用されているマスティックをも含んでいる。BF の飲用が内因的に作用し唾液分泌が促進されただけでなく、BF とマスティックの両者が外因的に作用したものと考えられる。また歯牙が 1 本も無い無歯顎の患者 1 例は、歯磨剤の使用は行わなかった。

【結論】

乳酸菌の混合培養で得られた発酵生産物である BF は、自律神経失調を改善し唾液分泌を促進させ口腔内の環境を改善させたことから、口腔乾燥症 (ドライマウス) のサプリメントとして有用と思われる。